



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 齋藤 庄司
編集者 中堤 聡司
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2011.10.10
第1438号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを 皆の力で」
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

第5回地方本部 組織拡大対策会議

職場の中心軸になり拡大行動を

◇水戸地本から4人招き経験交流◇

「第80回定期全国大会」で国労は、国鉄闘争の終結とJRにおける産別労働組合としての第一歩を踏み出すことを全体で確認した。今後の闘いの大きな柱は、「安全・安定輸送」の確立に向け、職場における労働条件改善と組織強化・拡大にあることは論を俟たない。地方本部はこうした状況の中で「第5回組織拡大対策会議」を開催し、水戸地方本部を招く中で各級機関書記長を中心に一泊で議論を行った。

職場実態を見た時、国鉄「分割・民営化」以降行われた偏頗な労務政策により生じた歪みの修正と次世代への「技術継承」は喫緊の課題となっている。国労を取り巻く情勢が大きく変化した今日、反転攻勢に向け、全組合員が団結して頑張ることを確認した会議となった。

「第5回組織拡大対策会議」は9月11日・12日の2日間、盛岡市つなぎ温泉「清温」の書記長を中心に35人が参加した。今春にJR東日本会社

職場・分会集ても意思統一

へ入社して国労に加入した中村賢太郎氏をはじめ、水戸地方本部から4人を会議へ招き、組織拡大の取り組みについて経験交流も行った。

最初に、齋藤委員長が「厳しい攻撃の中でも多くの組合員が歯を食いしばり奮闘してきた結果、全国的にも高い組織率にある。この組織状況を背景に、全組合員が拡大に向けた一歩前を出た取り組みを」と、取り組み強化を訴えた。

書記長はJR東日本本社・松井の情勢を中心に報告し、「組織拡大は労使関係正常化の延長線上にある。健全かつ正常な労使関係構築に向け、東日本本部として引き続き取り組みを強めていきたい」と挨拶。また、水戸地本・大和田亨委員長は「一括和解を受けて、新採の国労加入の取り組みを開始。初めは議論先行に



国労加入の経緯などを述べる中村さん(水戸地本)

組合員と家族皆で楽しい日

＝盛岡地区協運動会・110人が参加＝



玉入れ競技に熱中の参加者

10月1日、北厨川小学校体育館で「盛岡地区協第34回運動会」が、組合員・家族110人の参加で開催されました。開会式では熊谷常任委員長の挨拶と3人の来賓の方からお祝いの言葉をいただきました。昨年優勝の黄色チーム代表「湯沢英君」の力強い選手宣誓、準備運動で体をほぐし競技へと進みました。

競技は赤(駅連・書記)・白(施設)・緑(電気・運転)・黄色(運輸・貨物)の4チームに分かれ、団体競技として風船割りリレー、ムカデ競走など5種目、個人競技が飲食レースや障害物競争など5種目で行われ、最初遠慮がちだった奥様達もプログラムが進むにつれ本気モードに突入、組合員・子供達と一緒に大いに楽しんで熱戦を繰り広げ、黄色チームが2年連続で優勝を勝ち取りました。恒例のお楽しみ抽選会では駅連分會、菅原さんの奥様が1等賞品の米10キロと食材をゲットし大喜びでした。

ケガもなく無事終了し、組合員・家族皆で楽しい一日を過ごすことが出来ました。常任書記長 中村 良宏

当面の主な日程
▽10月16日・17日(浅草) 第67回定期地方大会
▽10月22日・23日(松島) 第25回東北協議会総会及び第8回東北協議会活動家交流集会

▽10月29日(盛岡) 地方本部出向役員会及び第5回総会
▽11月5日(盛岡) 第33回盛岡支部定期大会
▽11月13日(青森) 第54回青森支部定期大会

伊藤淳さん2度目の優勝 (盛岡運輸区分会)
○第16回地方本部ゴルフ大会○
16回目の地方本部ゴルフ大会が9月27日安比高原ゴルフクラブで74人が参加し開催された。優勝は2度目となる伊藤淳さんとなった。

ていこう
近年、55歳になり賃金が10%カットされた。しかし、仕事は増えた。みどりの窓口に入れられ、切符を売られるようになった。55歳になり、近くが見えづらくなり時刻表の小さな数字がますます見えなくなる。今年56歳になりますます目が見えなくなってきた。1年かけて覚えたマルス操作も10日も離れると忘れてしまいい、周りの人に教えてもらいながら仕事をこなす毎日だ。昨年入った新人社員にはとくに追い越され、教えられる毎日だ。若い時は、日を追うごとに身についていったことが今は日を追うことにほとんど忘れられて行く、全く逆だ。エルダー制度ができ65歳まで働き続けている人を見ると頭が下がる。私が入社した頃は55歳は定年だった。今、自分がその年齢になってみて、55歳定年という数字に納得している。気力、体力、視力、聴力どれをとっても節目の年だ。55歳あるいは60歳で納得できる年金支給が行えれば、退職のんびり好きなことをしたいと思っている。しかし、働かないと食べていけないから働かざるを得ない。年金制度が私達の思うように改正されれば、55歳あるいは60歳で退職しあらたな雇用が生まれると思う。同世代の人たちは皆同じ様に口にしていて、残るは国の判断だ。3・11の震災では未だ瓦礫の山がマスコミで放映されている。集まった義援金も配分されず基準が難しいなどと言っている。とりあえず一定額を全員に配分すればいいのに国民は皆言っているのに、国が判断できない。全てにおいて今の制度でやろうとしている。大変な時は大胆な決断が必要だ(京)

有志6人「NRUMORIオカ」安比リレーマラソンに参加

9月11日に18回目の2011年安比リレーマラソン大会(42・195キロ)が開催された。大会には、例年11月開催の国労東日本本部マラソン大会に参加しているメンバー有志が中心に練習を兼ねて吉田雅美(盛岡電気)さんをキャプテンに黒井恒夫・高橋幸治(盛岡施設)、花田長蔵(北上施設)、佐藤隆文(一関工務)、佐々木義仁(青森運輸区)さんの6人が、「NRUMORIオカ」のチーム名で参加し、1周2キロを21周プラス195メートルを4人から10人以内でのルールの中、チームは、1人3・4周を担当しタスキをつないでゴール3時間18分16秒5で318チーム中、133位となった。お疲れさまでした。

16回目の地方本部ゴルフ大会が9月27日安比高原ゴルフクラブで74人が参加し開催された。優勝は2度目となる伊藤淳さんとなった。当日は好天に恵まれ、8時過ぎから開会式を簡単に済ませ、岩手山・八幡平・竜ヶ森・十和田の4コースに分かれ、8時30分から順次スタート。昼食後、後半のコースをまわり15時過ぎには全員のプレーが終了。引き続き表彰・閉会式へ、齋藤委員長挨拶に続き、順位発表と表彰に移り用意された景品が組合員・来賓の方に手渡された。大会には、岩手県労働者福祉協議会、東北労働金庫、全労済岩手県本部、連合岩手、ハピネス共済会、(有)きょうさいライフ、国労会館歯科、ばんから屋など多くの団体や個人の皆さんからの参加や景品の提供をうけた。第3位までの成績は次の通り。

優勝 伊藤 淳 (盛岡運輸区分会)
準優勝 藤田 勇人 (青森施設分会)
第3位 佐々木睦美 (北上工務分会)

音威子府闘争団 激励交流団

早く取り戻そうあの笑顔を 最終解決に感慨深いものが

国労盛岡地方本部の組合員・ご家族のみならず、連日の奮闘に心より敬意を表します。

私も国鉄闘争支援青森県共闘会議では、国鉄労働組合第80回定期全国大会において



思い出を語り合い交流を深めた交流会

＜激励交流団メンバー＞

- 古内 熙 (共闘会議議長代行)
- 江良 寛 (平和労組会議議長)
- 奈良岡克也 (社民党青森県連合副代表)
- 阿部 一久 (青森支部委員長)
- 佐々木政志 (青森支部書記長)
- 蝦名 忠夫 (青森地区協議長)
- 奈良岡 勝 (青森施設分会分会長)
- 成田 芳隆 (青森施設分会書記長)
- 笹山 賀庸 (八戸工務分会分会長)

「JR不採用問題」の最終解決の決定を受けて、9月15日から18日の日程で組織として最後となる音威子府闘争団への「激励交流団」を派遣(9人)して交流して参りました。もちろん、解決の最後の課題であつた雇用の実現はなりませんでした。当事者が現状を深く考慮したうえで出した結論であることを理解し、四半世紀にも及ぶ長い闘いの「ご苦労をねぎらうことが今回の目的でした。」

を派遣してきました。さらには物販・支援カンパ、闘争の理解と拡大を求めて地区報告集会や決起集会なども取り組んできました。

しかし、「4党合意」を巡る音威子府闘争団との交流の中断もあり、厳しい局面もあつただけに最終解決にあつたこの闘いを応援してきた自分にとつても感慨深いものがあります。

とりわけ闘争団員とご家族は、今年こそ、今年こそと将来への見通しが立たない中でどうしてこの不屈の闘いを継続できたのでしょうか? 賃金をプールの生活に依りて配分という団員相互の信頼関係と仲間を信じ子供たちを含めたご家族の理解と支えがあつたこと。国労組合員は物販も

振り返りますと、1995年1月に22団体・2万8000人で結成された当会議は、第4次にわたる中央要請行動を取り組み、現地音威子府へも今回を含めて6回の「激励交流団」

連帯する会も対象の中心であり、毎月と手当のカンパもあり、当該労組の組合員であるとはいえ物心両面から支えたこと。それを支援する共闘の仲間との存在があつたことが挙げられると思ひます。

最後に私が一番心に残つてゐるのは、闘争団員とご家族を「青森ねぶた」に招待し、大変感動していただいたことです。団員も子供たちも奥さ

ま方も歓声を上げてねぶたを眺めて心底からの笑顔を見られたことです。

第二の人生のスタートという地点に立ったとはいえ、いろいろな問題にぶつかると思ひますが、あの笑顔を一日も早く取り戻せることをご祈念申し上げて私からのご報告とさせていただきます。

国鉄闘争支援青森県共闘会議 議長代行 古内 熙

全国貨物協議会 第26回全国委員会

本部・貨物協一体で解決を 厳しい貨物会社の実態

全国貨物協議会全国委員会が9月19日、20日、熱海市のホテル池田で42人が参加し開催されました。26回目の開催ですが私は初めて参加しました。

冒頭、東日本大震災での犠牲者に対するの黙とうと木元副議長の開会挨拶から始まり、眞田議長は「震災後貨物輸送の役割と原発事故問題に組合

も関わって行く。採用差別が解決した今、職場総点検運動と公平・公正な労使関係。劣悪な労働条件改善と組織強化拡大に向け全貨協も頑張つて行く」と挨拶。

来賓の眞子本部長・小池同業務部長が挨拶、続いて中曾根副議長から一年間の団体交渉経過の報告。笠井事務長の経過報告・活動方針(案)の提案が行われました。

質疑と討論では当日と翌日にわたつて委員24人中30歳代の2人を含む22人から発言がありました。主な内容は、

「震災時の会社の対応と問題点」「石油の迂回輸送が不安の解消になった」「数年前拡大が続いたが今年は組織拡大が出来なかつた、来年は拡大をしたい」「採用差別が解決、次は貨物が問題に」「55歳からの賃金30%カットは非常に厳しい制度の見直しをしてもらいたい」「福島第一原発の放射能汚染が心配」「合理化で技術継承が出来なくなつてゐる」「嘱託の労働条件改善を」などの意見がだされました。

眞田議長が「皆さんの意見・質問を参考に貨物協、本部と共に解決したい」とまとめに続き、当面する闘いの提案の承認を行いました。

役員改選では全員が再任。議長の団結ガンパローで終了しました。今回参加して、国労運動の継続ため組織拡大を全国的に確実なものとし、本部と一体になった闘いが必要であることを感じました。

地方大会代議員 43人を選出

10月16日・17日定期大会

- 第67回定期地方大会が10月16日・17日に青森市の浅虫温泉「南部屋」で開催される。各分会から選出された代議員は次の通り。
- なお、大会構成員には地方本部役員、特別代議員として各支部・地区協議会・職能別協議会代表者が参加することとなっている。
- ▽盛岡支部 26人
 - ▽盛岡駅連合分会
 - 近藤 信博 (零石駅)
 - 館洞 孝一 (盛岡駅)
 - 小笠原勝豊 (盛岡駅)
 - 立花 寿 (出向・もし券)
 - ▽盛岡運輸区分会
 - 岩脇 勇 (盛岡運輸区)
 - 細川 勝範 (盛岡運輸区)
 - ▽盛岡運輸分会
 - 白沢 俊明 (盛岡車両七)

- ▽盛岡施設分会
- 角館 武範 (盛岡保技術七)
- 荒矢 美登 (盛岡保技術七)
- 工藤 賢二 (盛岡土木技七)
- 西塚 博 (盛岡土木技七)
- ▽盛岡電気分会
- 米谷 伸一 (盛岡信通技七)
- 上田 龍雄 (盛岡電力技七)
- ▽盛岡貨物分会
- 館川 幸也 (盛岡総合鉄道部)
- ▽一戸地域分会
- 佐藤 弦悦 (出向・IGR)
- ▽花輪線地域分会
- 藤島 優悦 (盛保技七花輪派)
- ▽北上駅連合分会
- 佐々木照喜 (水沢江刺駅)
- 照井 幸男 (盛岡運輸区北派)
- ▽北上工務分会
- 佐々木喜一 (出向・ユニオン)
- 佐々木睦美 (北上保技術七)

- ▽盛岡運輸分会
- 阿部 善悦 (一ノ関運輸区)
- ▽一関工務分会
- 小野寺勝則 (出向・ユニオン)
- ▽気仙沼地域分会
- 熊谷 泰幸 (気仙沼駅)
- 熊谷 隆幸 (気仙沼駅)
- 熊谷 隆幸 (気仙沼駅)
- 小澤万寿男 (北保衛七若派)
- ▽宮古地域分会
- 留場 義継 (川内駅)
- ▽青森支部 17人
- ▽青森駅連合分会
- 高森 英明 (青森駅)
- ▽青森運輸区分会
- 野坂 均 (青森運輸区)
- 柴田 幸男 (青森運輸区)
- ▽青森施設分会
- 工藤 隆幸 (出向・ビルテン)



委員会には来賓を含め42人が参加

戸田 智章

「がん」の保障 《生きるためのがん保険Days(デイズ)》

保険期間：終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢：0歳～80歳、スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合

初めて診断確定されたとき	がんの場合	一時金として 100万円
診断給付金	上皮内新生物の場合	一時金として 10万円
入院したとき	入院給付金	1日につき 10,000円
通院したとき	通院給付金	1日につき 10,000円
手術したとき	手術治療給付金	1回につき 20万円
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき 20万円
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	1カ月に10万円 (すべての保険期間を通じ通算600万円まで) 1カ月に5万円 (乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合)

プレミアムサポート 訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社 法研が提供するサービスです)

©詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。

「生きる」を創る。Affac

◆月払保険料(団体取扱) (2011年4月1日現在)

生きるためのがん保険DAYS(デイズ) スタンダードプラン
入院給付金日額10,000円 定額タイプ
保険料払込期間：終身(抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,360円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

<抗がん剤治療特約>の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。

<募集代理店>
アベニール株式会社
TEL：03-3437-6810 FAX：03-3437-6822
〒105-0004
東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F
<引受保険会社>
アフラック 東京第三法人営業部
〒163-0456
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
当社保険に関するお問い合わせ・各種お手続き
コールセンター 0120-5555-95

AF007-2011-0186 4月25日